

「第8回産業日本語研究会・シンポジウム」の開催について

平成 29 年 1 月

産業日本語研究会世話人会

顧問：長尾 真 (京都大学名誉教授)
代表：井佐原 均 (豊橋技術科学大学)
委員：辻井 潤一 (産業技術総合研究所)
橋田 浩一 (東京大学)
隅田 英一郎 (情報通信研究機構)
山口 昌也 (国立国語研究所)
潮田 明 (産業技術総合研究所)
横井 巨人 (日本特許情報機構)

開催趣旨：

産業日本語の浸透を目指して

「産業日本語研究会」では、情報発信力の強化や知的生産性の向上を通じて、わが国産業界全体の国際競争力の強化に資するような、人間が理解しやすく機械が処理しやすい日本語(「産業日本語」)のあり方を研究しています。平成28年度は、産業日本語研究会とは協力関係にありつつも別組織であった「特許版・産業日本語委員会」を統合し、産業日本語の調査研究及び普及活動を一層促進しております。

企業活動や研究開発のグローバル化とそれを支える情報通信技術の発展により、国境を超えたコミュニケーションが活発化しています。それは欧米や中国にとどまらず新興国へも広がっており、海外市場を狙う日本企業にとって、ローカル言語への対応は重要な課題です。また、日本国内でも、訪日外国人観光客の増加などに伴う各種文書の多言語展開という課題も存在します。本シンポジウムが、このような多言語対応への対応策を講じていくための気づきを提供できる機会となることを期待しております。

人工知能の技術の進展などにより、文書データをいかに活用していくかは、多くの企業などの大きな課題となっています。今回のシンポジウムでは、文書データの作成及び利活用、並びにそれらを支援するサービスを提供する観点から、取り組みや研究についてご紹介していただきます。さらに、文書データの利活用に関する、講演者によるパネル討論により、文書データの効果的な活用方法を追求していきます。本シンポジウムが、文書データの更なる活用のきっかけとなれば幸いです。

これらを通じて、本シンポジウムが、産業日本語の更なる浸透につながり、我が国産業界に大いに貢献できる機会になると期待しております。産業界、学术界などからの、多くの皆さまのご参加をお待ちしております。